



NPO高知県
日中友好新聞

2023年1月10日

No.80号

発行責任者 岡林俊司

編集人 坂本茂雄

NPO 法人高知県日中友好協会

〒780-0870 高知市本町4丁目

1-37丸ノ内ビル1F8号

TEL: 088-825-0011 / FAX: 088-825-0513

nichu-kochi@movie.ocn.ne.jp

<http://kochi-nichu.com>



ご挨拶---民と民の交流の深化こそ！

新年あけましておめでとうございます。本年もご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

今年はコロナ禍4年目を迎えることとなります。感染予防対策を取りながら“ウイズコロナ”を工夫しながら日中友好活動に務めていきたいと思っております。

昨年も「春節を祝う会」は実施できませんでしたが、活動で特筆すべきは10月9日に高知会館で開催した「日中国交正常化50周年記念公演」でした。4回の実行委員会で役員の任務分担・チケット販売などに取り組み100人を超える来場者がありました。安徽省出身の王文強さんの「変面ショー」は本当に素晴らしく今後も取り組んでいきたいと思っています。また「高知県日中友好中国帰国者の会」代表の中野ミツヨさんの“私の祖国は日本と中国です、だから両国は仲良くしてほしい”の意見発表には胸を打たれ、日中友好の活動強化を改めて認識した次第です。

さて、今年は「日中平和友好条約締結45周年」の節目の年です。しかしロシアのウクライナ侵攻により世界の平和が脅かされています。一刻も早く戦争が終わることを願わずにはいられません。また日中関係においても岸田政権は中国を仮想敵国に見立て“敵基地攻撃能力”確保、安全保障関連3文書の閣議決定など、これまでの“専守防衛”の基本姿勢を変更しています。私は昨年のお年あけで“岸田政権はこれまでの安倍・菅政権よりもましではないか”の見解を述べましたが見事に外れました。しかしあきらめてはいけません。国家間の“対立”を民と民の“友好”でもって変えていくことができると、信じています。コロナ禍で交流が十分できていませんが、1日も早く実現したいものです。

最後に、当協会も会員の死去・高齢化などにより事務局機能が十分ではありません。会員拡大と組織の活性化に向けて皆様のご協力とご努力をお願いする次第です。2月18日の総会ではこれらの課題や2023年度の活動方針を決定していきますので会員の皆様のご参加よろしくお願いたします。

今年も、皆様とご家族がこの1年を健康で過ごされ、仕事や事業が進展されることを祈念いたしまして新年の挨拶とします。

2023年1月10日-----NPO 高知県日中友好協会会長 岡林俊司

2023年度定期総会を2月18日に開催します／「2023春節を祝う会」は中止します

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら今年も恒例の「春節を祝う会」を中止することを12月10日の第5回理事会で決定しました。今後、中国留学生が参加できる行事を考えていきたいと思っております。

また、当協会の2023年度定期総会は2月18日（土）に下記の通り開催します。三密対策を徹底しますので、会員の皆様のご参加よろしくお願いたします。

日時：2023年2月18日（土）13：30～15：30
場所：県民文化ホール4階会議室（7・8会議室）
高知市本町4丁目3-30／TEL088-824-5321

※総会の10日前までに「総会議案書」「出欠表」を送りますので返信をお願いします。
※理事・監事の皆さんは議案審議の理事会を1月28日（土）13：30～、はりまや町ウォーターベースで開催しますので出席願います。

——昨年 10 月 9 日に高知会館で開催した「日中国交正常化 50 周年記念公演」で高知県日中友好中国帰国者の会代表の中のミツヨさんが“日中友好”について意見発表されました。残留孤児として旧満州で暮らしたこと、やっと帰国してからの生活、そして今の思いを語られ胸を打たれました。中野さんの挨拶原稿を原文のまま掲載しますので、年頭にあたり“日中友好の意義”を考えてみたいと思います——

日中友好を世々代々続けよう！「前事不忘、後事の師」

皆さまこんにちは私は高知県日中友好中国帰国者の会 中国残留孤児の中野ミツヨと申します。

現在毎日ロシアとウクライナの戦争のことが報道されています。誰が戦争を望んでも争いの結果共倒れになる（両敗具傷）無辜の庶民が災難に遭います。ウクライナの難民を見ると、心がとても痛みます。この様子は同時に、1945 年終戦時の、私たちの家族、開拓団の逃避行の惨状を思い浮かべさせます。

1945 年の終戦時、当時の日本は、中国の最大の敵でした。（なぜなら、日本の中国侵略は 1931 年から 1945 年までまる 14 年続いたのです。）この戦争で私達満蒙開拓団は大きな犠牲者となりました。日本軍に捨てられた、身に寸鉄も帯びない開拓団の老人、婦女子、弱者たちは暴民やソ連軍などの襲撃をうけ、略奪にあい、全く、天にも地にも行き場がなくなっていました。開拓団には様々な惨劇が襲い掛かりました。ある団は、自国の軍隊に殺されたり、ある団は追い詰められて集団自殺をしたりしました。老若男女を問わず、皆がすべてを奪われて、一糸まとわぬ、裸！裸！のあり様、それは本当の生き地獄でした。その様子は、高知県幡多郡西土佐村江川崎開拓団の記録集『さいはてのいばら道』の中に詳しく記録されています。この本の中に 166 ページには、江川崎開拓団の終戦時の在籍者数 363 名、死亡者数 267 名、死亡率 73.6%と記載されています。これは身の毛がよだつ恐ろしい事実です！私の家族もその中の一員です。家族 6 人ですが 4 人（母、兄二人、おじさん）中国で命を落とし、父は引揚 3 年後病気で亡くなりました。生まれたばかりの私は中国の養父母に貰われました。その時から、私と両親、家族はもう二度と会うことができませんでした。

日本は戦争で負けた後、何千人ものいきている子供を侵略した他国の地へ捨てました。その時、中国人は気持ちが大きく、敵の子供たちを助けました。残留孤児たちには、いろいろな運命、血と涙の経験がありました、そのため、私たちはこんな年になるまで、苦しく、辛い人生を歩んできました。日本が起こしたあの戦争で残留孤児になった私たちは失った親、家族に永遠に会えなくなりました。私たちは戦争を許さない、悲惨な歴史が二度と来ないようにしたいと思います。

そのためにこの歴史の事実を忘れることなく「前事不忘、後事の師」（前のことを忘れず、後々の教訓とする。）という言葉を守らなければなりません。

1972 年 9 月 29 日、日中国交が回復してからの私達残留孤児の故郷を待ち望むこの苦しい気持ちが、皆さんは理解できますか？私は 16 年間待たされて、1988 年 7 月 29 日に私が 43 歳の時、家族 4 人で、やっと「日本」私の祖国へ永住帰国しました。

私残留孤児たちは、二つの祖国を持つ、両国の平和を誰よりも望んでいます。

つまり 中国は私達を死の淵から救ってくれ、育ててくれた命の恩人です。日本国は私たちの母国であり、永遠に離れることはできません。日中国交正常化 50 年にあたりこれからの未来を展望して、私達は日中友好が世々代々受け継がれていくことを心から願っています。日本と中国が相互尊重の基礎の上に、友好関係を築いていくよう力を尽くしたいと思います。皆様、日中友好を続けましょう！頑張りましょう！どうもありがとうございました。

2022 年 10 月 9 日

3年ぶりに研修旅行を楽しむ(12/1・2)

中国帰国者の会が姫路城・太陽公園を見学

昨年の12月1日(木)・2日(金)に高知県日中友好中国帰国者の会(略:帰国者の会)が3年ぶりに姫路城などを見学する研修旅行(バス旅行)を実施しました。コロナ禍のため会員同士が会うのは久しぶりで、皆さんは大いに楽しんでいました。参加者は35名で県日中からは岡林会長と竹内常任理事が参加しました。

初日は横浜団地、北竹島町を經由して7時45分にNTT東局前を出発し、豊浜SA、吉備SAで休憩し灘菊酒造の見学と昼食。午後1時から世界遺産の姫路城と隣にある好古園(日本庭園)を見学。姫路城もよかったけれど好古園の紅葉と景観が素晴らしい、の声がありました。そして早めの午後4時に塩田温泉の「夢乃井」に到着。温泉に浸かった後、6時から夕食懇親会が始まり、久しぶりに麻田さんの美声も聞くことができました。

2日目は朝食(内容が素晴らしいバイキング)の後、午前9時にホテルを出発し9時半に太陽公園に到着。白鳥城、ミニチュア世界遺産、トリックアートを見学。2時間以上歩いたため疲れた人もいましたが、特に「兵馬俑」のミニチュアが見事の声がありました。その後12時過ぎに「揖保乃糸資料館」に到着。工場見学と本場の“ソーメン定食”の昼食。皆さん「揖保乃糸」を土産に買っていました。

そして、龍野西SA、与島PA、立川PAで休憩を取りながら午後5時半にNTT東局前に到着し、研修旅行を終えました。コロナ禍で皆さん会えなかっただけに今回は特に印象に残る研修旅行となりました。(岡林記)



姫路城前にて↑

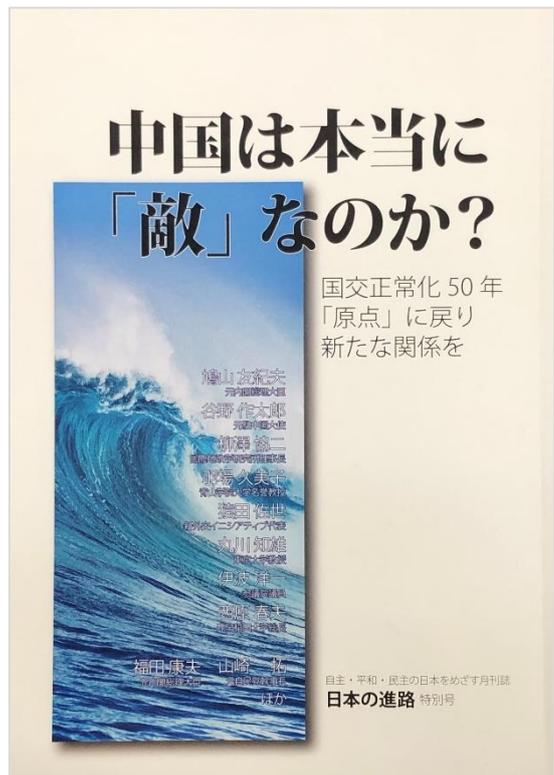
太陽公園にて→

~~~本の紹介~~~

月刊『日本の進路』特別号で『中国は本当に「敵」なのか?』が発刊(2022・11・25)されました。ロシアのウクライナ侵攻により世界情勢が一変し戦争拡大が懸念されています。また日本も平和憲法を有しながら戦争に加担する、巻き込まれるという動きが加速しています。23人の識者が見解を表明していますので参考になると思います。購読をお薦めします。販売価格1,400円を1,000円で当協会にて取り扱っていますので事務局か岡林会長(090-7149-4077)までお申し込みください。

※23人の筆者(敬称略)

石破 茂、伊波洋一、川平朝清、金城 徹、久保孝雄、猿田佐世、高野 孟、高良鉄美、谷野作太郎、寺沢秀文、仲里利信、長野広美、西原春夫、野添文彬、鳩山友紀夫、馬場久美子、福田康夫、古川禎久、丸川知雄、八板俊輔、柳澤協二、山崎 拓、山本正治



~新会員のご紹介~

本年1月1日付で尾崎靖司さん(高知市在住、47歳)が加入しました。尾崎さんは県立高知東高校の教員(国語)で2016年~2019年まで上海日本人学校に勤務されていました。今後の活躍に期待します。

参加してみませんか?

「三国志で中国を知ろう~蜀国編」

日時: 2023年2月4日(土) 14:30~16:30

場所: オーテピア4階研修室(高知市大手筋2-1-1)

申し込み: 高知県文化国際課・王さん(088-823-9605)または別添チラシのURLから

~新春餃子パーティーに参加しませんか~

昨年12月の会報79号でお知らせした「新春餃子パーティーを下記のとおり開催します。中国留学生学生会の皆さんの手作り餃子を味わいながら交流を深めましょう。(参加者の方も餃子を作りましょう)

日時: 2023年1月21日(土) 10:00~(食べるだけの方は昼前までに)

場所: はりまや橋商店街、ウォーターベース他

参加費: 500円~1,000円

お申し込み: 岡林会長まで(090-7149-4077)

※コロナ禍のため中止・場所の変更などの場合は事務局から申込者の方に連絡します。

